

日本共産党の横山隆一です。

菊川市議会議長選挙に臨むに当たり、私の議会運営に対する所信を申し上げます。議員の皆様方の御理解とご支援・協力をお願い申し上げます。

私は、今から23年前、平成10年45歳の時に地区の皆様のご支援をいただき菊川町議会議員に初当選をさせて戴きました。当時、河川環境改善への取り組み・リサイクル意識向上の為のイベント開催・まちを活性化する為の市民活動へは積極的に参加させて戴いていました。町政や議会活動については全く知りませんでした。多くの先輩議員にご指導戴き町議会議員を2期、合併後に誕生した菊川市議会議員を1期延べ3期議員を努めさせて戴きました。

この間、当初は保守系議員として活動をして参りましたが、合併問題や原発問題・議員としての姿勢に疑問を感じ3期目の後半に無所属となりました。

議会とはどうあるべきか。市民や執行部との向き合い方はどうあるべきか。

市民から信頼される議会にするために議会改革の「一丁目一番地」と考えたのが、北海道栗山町が制定した「議会基本条例」の導入でした。

同僚議員と勉強会を重ね議会改革委員会の設置と同時に、十数回にわたる委員会を通し党派を超えた賛同をいただき、静岡県下で最初となる議会基本条例を制定することができました。

そこで私は一度、議員に区切りをつけ議会から離れましたが、4年前に日本共産党の公認をいただき議員復帰させていただきました。

そこで目の当たりにしたのが、議会基本条例制定以前のドブ板ならぬ「ナァナァ議会・イエスマン議会・翼賛議会」であり議会基本条例の本旨が全く理解されていない「言うならば閉ざされた議会」であり愕然としたことを思い出します。

なぜ、全国の多くの議会がこの基本条例を制定されているのかを議員の皆さんは理解をするべきです。

その大きな問題の一つが、市長との距離の問題です。執行部とは「一步離れ二歩離れず」が議員としての立ち位置でなければなりません。実態は市長と「ベッタリ」であり、「市政与党・追認機関」状態であり議会機能を十分に果たしているとは思えません。議会制民主主義のもと「二元代表制」が原則であること忘れてはなりません。市長との緊張感の保持が強く求められます。

時に「市長を支え、市長と共に」と発言する議員が見られますが、もっての他です。議会の基本的な役割は、提案される議案が適正かどうかを厳格に審査することです。

2年前、議会改革の必要性を強く訴え「議会改革委員会」が設置され、その委員会に一人党派からも参加することが出来たと同時に「議員の公平・平等を確保」する上で委員会への配属など大きな改善が出来たことは、開かれた議会を

目指す上で極めて大きな改革でありました。議会改革が目的ではなく、市民のための議会になるための第一歩だということを確認としなければなりません。市民から預かる税金を無駄なく有効に使うことが基本です。議案に対する表決においても、賛成の立場であればその明確な説明、反対の立場であれば「対案を持って反対」を徹底するようにして参ります。

しかし、まだまだ市民の負託に応えられる議会になっているとは思えません。議会改革は、繰り返しますが「市民の為の議会改革でなければなりません」先送りすることなく、本来の「市民が主役という原点に立った議会」となるようタイムリーに改革を続ける必要があります。

私は過去に、費用弁償の廃止・予算決算特別委員会の導入・静岡県下で初の議会基本条例制定などを提案し成し遂げて来ました。前期の議会改革推進委員会で積み残した、よりよい議会をつくっていくため、引き続き議会改革推進委員会を設置致します。

具体的取り組みとして、緊張感のある議会をつくるため会派性の見直し・予算審議の強化を図るための研修会の実施・専決処分を出来るだけ出さない為の通年議会導入・効果的な一般質問等の事前ヒアリング・答弁書の事前開示とその後の検証・市民参加を推進するための議会モニター制度導入や日曜・夜間議会の開催・議会機能強化の為の政務活動費の扱い・議長の公平性の確保として会派離脱の実現・参考人招致や公聴会の実施・菊川市に多大な影響を与えかねない浜岡原発・リニア中央新幹線によるリスク回避を進める為の研修会・勉強会の更なる充実等々まだまだ取り組むべき課題は山積しています。

高度化する情報化時代に合わせたタブレットの導入が出来たことは、充分評価されることですが、これにより本来最も議会に求められる議案審査がおろそかになってはいけませんし、あくまで市民が主役であり、市民と情報共有・市民参加が成されなければなりません。質の高い議会への取り組みも極めて重要です。議員として例規の理解習得は必須の条件となりますので経験の浅い議員には特に勉強をしていただく機会も設けて参りたいと思います。早期に、市民に信頼され開かれた議会となるよう進めて参ります。

「市民との対話・議員間の対話」をスローガンとし、議員4期の経験を活かし「市民による市民の為の議会」を目指して参ります。

緊張感と議会内の融和を共有出来ればベストだと思います。

菊川市議会が、全国の地方議会から目標とされる議会となるようよう進めて参ります。

議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます議長選挙への決意とさせていただきます。